

## 勉強会・人材養成講座

平成24年度の「禅の里」まちづくりの目的の一つとして、永平寺及び門前町の歴史を語り継ぐ人材の養成や「禅思想」に基づく伝統文化体験を実施しています。

### ■歴史文化遺産活用検討部会

第1回 平成24年8月10日(水)

#### テーマ：修行道場永平寺

講師：大場単頭



歴史文化遺産活用検討部会の第1回目として、「修行道場永平寺」と題して、永平寺の歴史や永平寺での修行の意味などをテーマにお話いただきました。

永平寺は、曹洞宗一万五千寺の大本山です。永平寺では、34名の役寮と約190名の雲水(修行僧)が修行を続けています。

曹洞宗の開祖道元禅師が著した「正法眼蔵」の中に、坐禅の仕方、食事の仕方、トイレの入り方・行い方、掃除の仕方などが記されており、それら全てが修行です。

修行の中心は坐禅です。「無常」という言葉があります。私たちの体は意識せずとも老いていくものであり、大自然の働きをしています。そのようなことに気付き、命を粗末にせず、体を人のために活かすという考えでなければなりません。そのため、坐禅を全身全霊で行い、一匹の虫まで救うという気持ちを忘れてはいけません。

坐禅では、頭に浮かんだことを追いかけてはなりません。思い浮かんだことが、自分にとって都合がいいか悪いかを判断するのは大きな過ちなのです。分別を断ち切り、よし悪しを決めないのです。

人は成果を求めたい、見返りがほしいと考えます。競争して出世することを求めますが、その結果疲れ果ててしまいます。

坐禅には見返りはありません。修行僧はだれとも競争しませんし、人の上に立つことには益はありません。

修行に頭のよし悪しも関係ありません。志があるかないかが大事なのです。



勉強会の様子

### ■永平寺及び門前町の歴史を語り継ぐ人材養成講座

第1回 平成24年8月20日(月)

#### テーマ：白山と永平寺

講師：傘松編集室長 高山氏

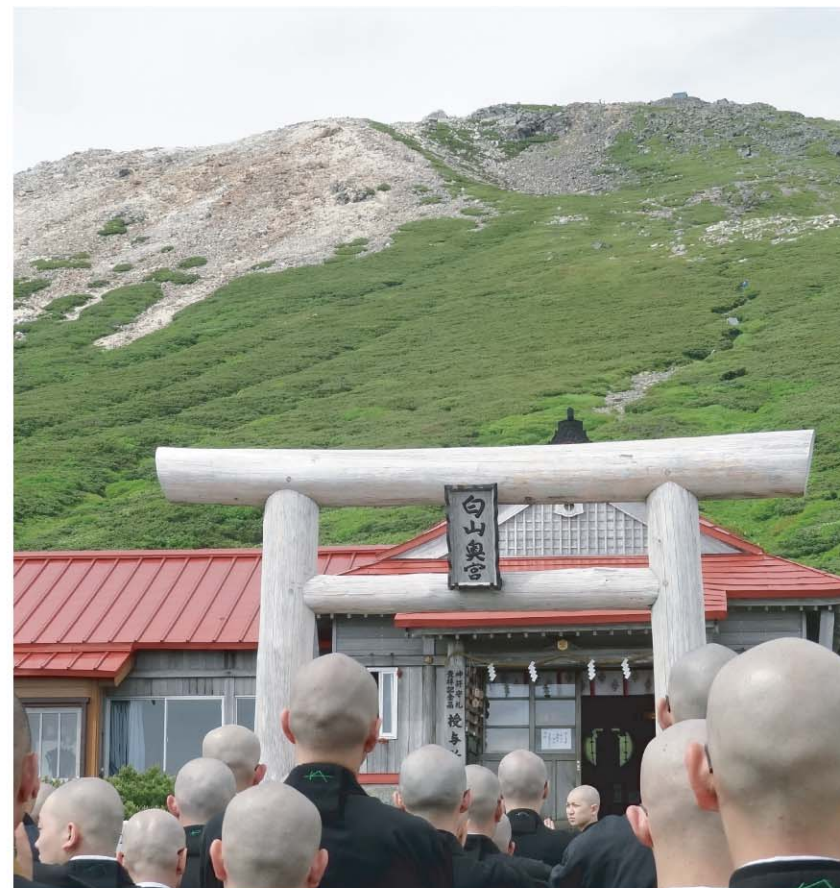
人材養成講座の第1回目は、永平寺と深いかかわりをもつ白山、白山信仰をテーマにお話をいただきました。

#### 「白山」とは信仰の山 ～北陸を象徴するものの一つ～

霊峰白山は、富士山、立山と共に日本3名山の一つに数えられています。

足羽郡浅水に生まれた泰澄大師(越の大徳)が白山を開いたと言われており、白山信仰の形は、「三所権現」(神仏習合)です。白山三所権現とは、主峰御前峰は白山妙理大権現と号し、本地仏は十一面観音、大汝峰は大己貴神で本地仏は阿弥陀如来、別山は小白山別山大行事で本地仏は聖観音です。

加賀馬場・美濃馬場・越前馬場という登山の拠点からで頂上までの登山道を禅定道といいます。



白山神社鳥居より白山を望む



白山の風景



人材養成講座の様子